

保育実習を経験した学生の進路選択に関する検討

Career Decision Making of the Students Who Experienced Childcare Practicum

榑原 尉津子 杉山 佳菜子
Itsuko Sakakibara Kanako Sugiyama
小川 真由子
Mayuko Ogawa

(要約)

保育者養成校である短期大学2年生138名を対象に、保育実習Ⅱ(保育所)の事前事後に実習の不安解消と実習経験後の就職先の変更等についてアンケート調査を実施した。その結果、実習先での経験や子どもとの関わりが学生自身の実践・応用能力を養い、現場保育士による丁寧な指導や支えが不安解消や進路選択に繋がることがわかった。今後はこの調査結果を基に、学生へは保育所保育指針改定の背景を伝えること、大切ないのちを預かる職に就くということ、保護者支援が求められているということを改めて考えさせるとともにやりがいと魅力を伝え、将来就きたい職業に繋げられるよう指導・援助していきたいと考えている。

(キーワード)

保育実習、実習中の不安、進路選択、保育士のやりがいと魅力、実習指導

1. はじめに

2018(平成30)年、教育・保育の質を高めるため教育要領、教育・保育要領、保育指針が改訂となった。10年に一度改定される要領と指針だが、10年前との違いについては2016(平成28)年の厚生労働省社会保障審議会児童部会保育専門委員会の報告によると、10年前の告示から社会情勢が大きく変化したことを踏まえ、「量」と「質」の両面から子どもの育ちと子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」が2019(平成27)年に施行されたことが大きな違いとして挙げられている。その背景には、0～2歳児を中心とした保育所利用児童数の増加である。2008(平成20)年には1・2歳児保育所等利用率27.6%が、2015(平成27)年には38.1%と10.5ポイント増加した。また子育て世帯における子育ての負担や孤立感の高まりの問題、児童虐待相談件数においては2008(平成20)年は42,664件だったが、2015(平成27)年には103,260件と60,596件と倍以上増えたことが改定の背景として挙げられている。またその改定の方向性としては次のとおり示されている。

・乳児・3歳未満児保育の記載の充実

この時期の保育の重要性は、0～2歳児の利用率の上昇等を踏まえ、3歳以上児とは別に項目を設けるなど記載内容を充実(特に、0歳児の保育については、乳児を主体に「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点から整理・充実)。

・幼児教育の積極的な位置づけ

保育所保育も幼児教育の重要な一翼を担っていること等を踏まえ、卒園時まで育ててほしい姿を意識した保育内容や保育の計画・評価の在り方等について記載内容を充実。主体的な遊びを中心とし

た教育内容に関して、幼稚園、認定こども園との整合性を引き続き確保。

- ・健康及び安全の記載の見直し

子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえ、食育の推進、安全な保育環境の確保等に関して、記載内容を見直し。

- ・「子育て支援」の章を新設

保護者と連携して「子どもの育ち」を支えるという視点を持って、子どもの育ちを保護者とともに喜び合うことを重視するとともに、保育所が行う地域における子育て支援の役割が重要になっていることから、「保護者に対する支援」の章を「子育て支援」に改め、記載内容を充実。

- ・職員の資質・専門性の向上

職員の資質・専門性の向上について、キャリアパスの明確化を見据えた研修機会の充実なども含め、記載内容を充実⁽¹⁾。

以上5つの方向性が示されており、より一層保育者の資質能力の向上と子どもだけではなく、保護者への支援・ニーズに沿った保育が求められる時代と変化していった。そこで、2018(平成30)年より筆者らは質の高い保育者を育成することを目的に、科目間の連携を図りながら、教授内容の検討、教育・保育実習関連書籍の執筆等を進めてきた。また、教授内容を検討するため保育士を目指す学生の実践的な学びの場である保育実習Ⅰ(保育所、施設)、保育実習Ⅱ(保育所)を経験した学生を対象にした実習の振り返りアンケート調査を継続的に実施した。実習前の調査では、学生の生活習慣・実習前の準備・実習への不安・実習目標と自信等に関する内容を調査し、実習後の調査では、実習中の経験・パーソナリティ・目標達成度・実習中の不安・進路選択等に関する内容の調査を行った。結果からは、約30日間の保育実習経験が質の高い保育士になるための貴重な学びの場になっていることが明らかとなった。そして、実習先での園児や保護者との関わり、職員の丁寧な指導を受けることができたこと、部分・責任実習の経験が保育職へのやりがいにつながっていることも明らかとなっている⁽²⁾。しかし、2020(令和2)年9月に出された保育の現場・職業の魅力向上検討会の報告書⁽³⁾によると、「子どもの存在を通して、命と向き合い、社会と関わる。豊かな人間性と高度な専門知識を備えた専門職として、保育を必要とする多くの子どもの多様な姿や育ちを定点観測のように見守りながら育み続けることができる魅力あふれる仕事である。保育の質の中核を担う保育士は、専門職として一層の知識の獲得及び技術の向上に取り組むことが求められている。保育士が各々の個性や特技を活かしながら専門性を向上させていくことで、保育現場はもっと豊かになる。保育士として子どもについて理解を深め、保育の楽しさを実感できるためには相当程度の経験が必要であり、保育士が専門性を向上させながら長く働くためには、保育の魅力とやりがいに見合った、魅力ある職場づくりを進めることが不可欠である」と記されていた。やりがいだけでなく、保育の魅力とやりがいが重要視されていることがわかり、保育指針改定の背景、保育の現場・職業の魅力向上の観点からも質の高い保育士を養成するとともに、さらに各科目担当者の教授内容の工夫と検討、学生への進路指導を含めた助言・指導、そして何よりも保育士の魅力を伝えていかなければならないと考える。

2. 本研究の目的

榊原・杉山・小川(2019)の研究では、保育実習後の不安解消について調査し「実習に行く前に不安に思っていたことは実習を経験して解消されたか」という質問に対して64%の学生が解消されたと回答があった。その理由として、職員による指導や支え、現場での経験が不安の解消に繋がった⁽⁴⁾という記述があり、保育実習の経験が不安解消に繋がっていることが明らかとなった。

畠山(2013)は、保育実習は教科全体の知識・技能を基礎として、保育現場で0歳児から6歳児までの乳幼児を対象相手に実践活動する。これらを総合的に試み、実践・応用能力を養うことによって、乳幼児に対する理解を通し、理論と実践の関係を学ぶことで身につけ、保育士の職に就くときの能力と自信の基礎となっていく⁽⁵⁾と述べている。また上野(2011)は、学生の実習中の気づきから、学生自身が幼稚園・保育所・児童福祉施設のどの場にもっとも適しているか、すべての実習が終了してから学生自身ももっとも考えなくてはならないこと⁽⁶⁾と述べており、実習体験が学生の就職活動の動機づけに繋がるとしている。

そこで本研究では、実習を経験した学生の進路選択について、養成校への進学理由、実習の不安、実習後の就職先変更、実習の不安と進学理由や就職先との関連について検討し、保育職のやりがいや魅力を探るとともに実習・進路指導に必要な指導・援助の方法を検討していく。

3. 方法

(1) 調査協力者

A短大2年生37名は、保育実習Ⅰ(保育所・施設)、教育実習Ⅰ(幼稚園)の3回の実習を経験している。B短大2年生101名は、保育実習Ⅰ(保育所・施設)、保育実習Ⅱ(保育所)、教育実習Ⅰ・Ⅱ(幼稚園)の4回の実習を経験している。

(2) 調査時期

短大によって実習時期が異なるため、調査時期は異なる。

事前調査：A短大は2019年6月、B短大は2019年11月。いずれも実習直前の授業内で実施。

事後調査：A短大は2019年7月、B短大は2019年11月。いずれも実習直後の授業内で実施。

(3) 質問項目

事前調査では、生活習慣、実習前の準備(指針、指導案、保育教材等)の度合い、実習への不安などを調査し、事後調査では、実習中の経験、目標達成度、就職に対する考えの変化など調査した。その中から本稿では、実習に行く前に不安に思っていたことは実習を経験したことで解消されましたか(4択、理由については記述)。希望する就職先は実習前と変わりましたか(2択、理由については記述)。なぜこの短大に進学しようと思われましたか(5択、その他については記述)についてみていく。

(4) 倫理的配慮

それぞれの短大で質問紙調査を実施する際に、回答は自由であり、答えたくない質問には未記入でもよいこと、個人が特定されないよう統計的に処理すること、得られたデータは研究以外の目的には使用しないこと、実習や研究者らが担当する科目の成績には影響しないことなどを紙面と口頭で説明し、調

査協力者からの質問紙の提出をもって調査への協力の同意が得られたものとした。

4. 結果

(1) 実習前の不安が解消されたかについて

実習に行く前に不安に思っていたことが実習を経験したことで解消されたかについての結果は表1のとおりである。

表1. 実習を経験して不安は解消されたか

項目	度数	パーセント
不安はなかった	13	9.4
解消されなかった	18	13.0
解消された	81	58.7
不安に思う必要がなかった	15	10.9
有効回答者数合計(名)	127	92.0
記入なし	11	8.0
調査協力者数(名)	138	100.0

学生の回答をみると「解消された」と回答した学生が81名(58.7%)おり、10日間の実習経験が実習前に感じていた不安解消に繋がったと推測する。しかし、「解消されなかった」と回答した学生が18名(13.0%)おり実習経験が直接不安解消に繋がらないことがわかった。またこの結果は、職員のサポートにより「不安に思う必要がなかった」と回答した学生15名(10.9%)よりも2.1ポイント高い結果となった。不安が解消された理由として本研究の目的(やりがいや魅力)に関連のある記述だけを挙げると表2のとおりである。実習指導担当保育士の丁寧な指導、職員との良好な関係、優しい職員であった(50名)といった記述が最も多くみられた。また子どもに癒された、子どもが楽しんでくれた(12名)という記述もあり、子どもとの関りも保育士のやりがいや魅力に繋がる大切な要因であることがわかった。

表2 実習の不安解消の理由

<p>【現場職員のサポートに関すること】50名 職場の雰囲気良かったため。先生方が優しくかった。良い先生ばかりだったから。先生方に優しく声をかけてもらい、相談(子どもたちや部分・責任など)にしっかりとってもらった。とても丁寧に教えてくださったから。担任の先生との人間関係が不安だったのですが、とても良い関係で実習を終えられたため。日誌についてもアドバイスをくださったり、書けているところは褒めてくださったりした。反省会でアドバイスをもらい、今後に活かそうと思った。いつのまにか解消されてた、5歳児との関わり方に不安を感じており、先生の姿を見て解消されたから など</p>
<p>【子どもとの関わりに関すること】12名 子どもに癒されました。子どもの笑顔。子どもと関わることで解消された。3,4,5歳に出し物をする機会があり不安だったが、楽しんでくれたから。できないこともあったけど、子どもの前で楽しくする姿を見せて、子どもが楽しんでくれることが一番であるから。子どもたちと仲良くなれたし、だいたいの子の名前を覚えられた。子どもたちとかかわりをきちんと持てるか不安だったけれど、受け入れてくれたから。たくさん関わり、経験することができたから など</p>
<p>【学生自身の気持ちに関すること】10名 楽しかったから。最後だから楽しもうと思った。とても充実した実習だったため毎日過ごしていたら、不安もなくなっていった など</p>

【部分・責任実習の体験に関すること】6名

責任実習が大成功した。部分実習を行うことで、自信がついたから。責任も部分もたくさん褒めてもらえて自信がついたから、自習で実行してみて、うまくいったから、部分実習が今までで一番上手くいったと思うし、先生方がとても丁寧にアドバイスをしてくれたから。

(2) 希望する就職先は実習前と変わったかについて

次に実習前から不安を感じていた学生が、保育現場での学びと経験をとおして希望する就職先は実習前と変わったか、学生の意識の変化についての結果は表3のとおりである

表3 希望する就職先は実習前と変わったか

項目	度数	パーセント
希望する就職先が変わった	10	7.2
希望する就職先は変わらない	120	87.0
有効回答者数合計(名)	130	94.2
記入なし	8	5.8
調査協力者数(名)	138	100.0

結果をみると、ほとんどの学生が「変わらなかった」120名(87.0%)と回答しており、実習前から希望(内定者有り)している就職先への進路を考えていることがわかった。就職先が「変わった」10名(7.2%)と回答した学生の就職先の変更理由については記述があった8名の理由を表4に示す。実習を経験して保育士の魅力ややりがいを感じた者、保育士としての責任や職員同士の人間関係を目の当たりにし進路変更を考えた学生がいた。

表4 希望する就職先が変わった理由

・今までは保育園での就職は考えていなかったけど、どの年齢の子もとてもかわいくて、私より年上の保育士の方もたくさんいらっしゃったので、自分も保育士として働けそうな気がしてきた。
・保育士の楽しさや子どもが好きだと実感したから。
・母園であり、保育者と子どもの関わりをみて、こんな風になりたいと思ったから。
・子どもと関わることが好きで、もっと一緒に楽しみながら成長をしていきたいから。
・実習生の立ち位置ではきになる子どもを気にかけて保育できるが、主任になれば大勢の一人として一人一人が見えなくなると思うから。
・こんなところで働きたくないと思った。
・保育者同士の愚痴の言い合い、男性保育士への対応→離島に行きたい。
・迷い中。

(3) 短大への進学理由について

今回調査対象となっている学生の入学時の履修登録状況から、全ての学生が保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の両免取得を目的に入学した学生の進学理由について回答を求めた。結果は表5のとおり多くの学生は「自分の意志で保育者の資格を取りたいと思った」98名(71.0%)であったが、自分の意志ではなく「学校の先生に進められて」9名(6.5%)、「保護者に勧められて」と「なんとなく進学した」が6名4.3%という回答もあった。

表5 短大への進学理由

項目	度数	パーセント
自分の意志で保育者の資格を取りたいと思った	98	71.0
自分の意志で保育者の資格を取りたいと思った+学校の先生のすすめ	4	2.9
学校の先生に勧められて	9	6.5
保護者に勧められて	6	4.3
なんとなく進学した	6	4.3
その他	7	5.1
有効回答者数合計(名)	130	94.2
記入なし	8	5.8
調査協力者数(名)	138	100.0

(4) 実習の不安と就職先の変更との関連について

実習の不安と就職先の変更との関連をみると表6のとおりであった。実習を経験したことで不安が解消された学生の81名中74名(91.4%)が希望する就職先の変更はみられなかった。しかし、解消されなかった学生の18名中16名(88.9%)についても希望する就職先の変更はなかったことがわかった。

表6 実習の不安と就職先の変更との関連

実習の不安	就職先変更	度数	パーセント
・実習の不安はなかった学生の就職先変更	変わった	2	15.4
	変わらなかった	11	84.6
	有効回答者数合計(名)	13	100.0
・実習は経験したが不安解消されなかった学生の就職先変更	変わった	2	11.1
	変わらなかった	16	88.9
	有効回答者数合計(名)	18	100.0
・実習を経験したことで不安解消された学生の就職先変更	変わった	4	4.9
	変わらなかった	74	91.4
	有効回答者数合計(名)	78	96.3
	記入なし	3	3.7
	合計	81	100.0
・実習を不安に思う必要がなかった学生の就職先変更	変わった	0	0.0
	変わらなかった	15	100.0
	有効回答者数合計(名)	15	100.0
・実習の不安に関する記入がなかった学生の就職先変更	変わった	2	18.2
	変わらなかった	4	36.4
	有効回答者数合計(名)	6	54.5
	記入なし	5	45.5
	合計	11	100.0

(5) 実習の不安と進学理由との関連について

実習中の不安と進学理由との関連をみると表7のとおりであった。不安はなかったと回答した10名(76.9%)の学生は自分の意志で養成校への進学を決めており、不安が解消された学生63名(77.8%)も

同じように自分の意志で進学を決めていることがわかった。また不安が解消された学生のうち6名(7.4%)は自分の意志ではなく、学校の先生の勧めで進学してきている者もいることがわかった。しかし、実習の不安に関する質問に対し、どの項目にも保護者の勧めが進学理由に入っていることが明らかとなり、将来就きたい職業が明確に決まっていない学生も入学してきているのではないかと推測する。

表7 実習の不安と進学理由との関連

実習の不安	進学理由	度数	パーセント
・実習の不安はなかった学生の進学理由	自分の意志で	10	76.9
	保護者の勧め	1	7.7
	なんとなく進学	1	7.7
	有効回答者数合計(名)	12	92.3
	記入なし	1	7.7
	合計	13	100.0
・実習は経験したが不安解消されなかった学生の進学理由	自分の意志で	12	66.7
	学校の先生の勧め	1	5.6
	保護者の勧め	1	5.6
	なんとなく進学	2	11.1
	その他	1	5.6
	有効回答者数合計(名)	17	94.4
	記入なし	1	5.6
	合計	18	100.0
・実習を経験したことで不安解消された学生の進学理由	自分の意志で	63	77.8
	自分+学校の先生	2	2.5
	学校の先生の勧め	6	7.4
	保護者の勧め	2	2.5
	なんとなく進学	3	3.7
	その他	5	6.2
	合計	81	100.0
・実習を不安に思う必要がなかった学生の進学理由	自分の意志で	10	66.7
	自分+学校の先生	1	6.7
	学校の先生の勧め	2	13.3
	保護者の勧め	1	6.7
	その他	1	6.7
	合計	15	100.0
・実習の不安に関する記述がなかった学生の進学理由	自分の意志で	3	27.3
	自分+学校の先生	1	9.1
	保護者の勧め	1	9.1
	有効回答者数合計(名)	5	45.5
	記入なし	6	54.5
	合計	11	100.0

(6) 考察

実習の不安に関する結果や学生の記述からは、実習先の指導保育士の丁寧な指導や子どもとの関わり、職員との人間関係が実習の不安解消に繋がることがわかった。進学理由に関する結果からは、ほとんど

の学生が自分の意志で保育士、幼稚園教諭を目指そうと養成校への進学を決めているということはわかったが、学生の中には専門職と言われる職業であっても自分の意志ではなく保護者や高校教諭の勧めで進学してきている学生もいることがわかった。実習の不安と就職先の変更については、保育実習Ⅱへ参加する前に保育所、認定こども園、幼稚園、児童福祉施設への内定が決まっている学生が多いため、就職先を考え直す学生が少ないことから、質問内容を検討し直す必要があると考える。

5. まとめ

今回の調査から、学生は実習に参加することで現場での経験を積めることができ、また直接、保育士や子ども、保護者との関わりをとおして保育士になることへの自信とやりがいを感じることができる貴重な学びの場となっていることがわかった。このような経験、特に学生の不安解消の記述にもあったように、実際の現場で部分・責任実習(特練)の回数を重ねることで、学生自身の実践・応用能力も養うことができる。そのため実習以外にボランティア活動やゼミナール等の授業を利用し、現場職員や子どもと関わる機会を持つことでさらに保育職の魅力を伝えることができるのではないかと考える。学生へは、指針改訂の背景を伝えること、大切ないのちを預かる職に就くということ、保護者支援が求められているということを改めて考えさせるとともにやりがいと魅力を伝え、将来就きたい職業に繋げられるよう指導・援助していきたいと考えている。

引用文献

- (1) 一般社団法人全国保育士養成協議会「保育所保育指針の改定について：厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課-資料1」(2017), http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/29-1s1.pdf, p16(閲覧 2020.10.8)
- (2) 榑原尉津子・杉山佳菜子・小川真由子(2019)「学生の考える保育実習の目標と達成度」鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編 第2号, 271
- (3) 保育現場・職業の魅力向上検討会「保育現場・職業の魅力向上に関する報告書」(2020), <https://www.mhlw.go.jp/content/000701216.pdf>(閲覧 2020.10.8)
- (4) 榑原尉津子・杉山佳菜子・小川真由子(2019)「学生の考える保育実習の目標と達成度」鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編 第2号, 278 - 279
- (5) 畠山倫子(2013)「幼児教育法 教育・保育・施設実習」三晃書房, 11
- (6) 上野恭裕・大橋喜美子・浦田雅夫(2011)「考え,実践する 教育・保育実習」保育出版社, 173

参考文献

- ・一般社団法人全国保育士養成協議会「保育所保育指針の改定について：厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課-資料」(2017), http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/29-1s1.pdf (閲覧 2020.10.8)
- ・厚生労働省保育の現場・職業の魅力向上検討会「【概要】保育の現場・職業の魅力向上検討会報告書 PDF」(2020), <https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000677596.pdf> (閲覧 2020.10.8)